

株主の皆様とNTTを結ぶ

証券コード:9432

NTTís...

2011 春

この絵には漢字1文字が隠れています。
答えは14ページにあります。





代表取締役副社長
うじのりたか
宇治 則孝

NTTグループの技術戦略を統括する宇治則孝副社長に、サービスや研究開発の取り組み状況やNTTのグローバル展開などについて聞きました。

Q 情報通信の現状に関して副社長のお考えを教えてください。

A 情報通信に関しては世界的に大きな変化が生じています。例えば、通信回線を利用した映像

配信や携帯電話向けのワンセグのような放送と通信の垣根を越えたサービスに代表される「サービス融合」の動きがあります。また、皆様ご存知のとおり、クラウドコンピューティングの登場により、サーバやソフトウェアを「所有」という形態から、それらの機能をネットワークを経由して「利用」という形態への転換も進んできました。

このような大きな変化の源泉となる新しい技術やサービスは、様々なコラボレーション（連携）の中で生まれています。国内にとどまらず国境を越えた様々なかたちで、異なる業種の企業とのコラボレーションにより、技術、サービス、そして経済的にも大きく発展する、そんなチャレンジ精神をもって臨みたいものです。

私たちは、ブロードバンド・ユビキタス社会の実現に向け、固定・無線ともにブロードバンドネットワークの普及に取り組んできました。長年培ってきた光や無線の技術を活用し、さらにコスト削減に向けた技術開発を進めることで、日本のブロードバンドネットワークは、世界で最も高速でかつ廉価なレベルになっています。光のブロードバンドは日本全国の約90%をカバーしており、NGN（次世代ネットワーク）の提供エリアも、2011年の3月までに既存の光サービスのエリアを概ね網羅する予定です。そして、無線の高速ブロードバンドについては、高速・大容量・低遅延が特長の新たな通信規格であるLTEサービスを「Xi」（クロッシィ）[®]として2010年12月に提供開始しました。

重要なことは、こうしたインフラを生かして、お客様に対してどのような価値のあるサービスが提供できるかということです。固定と無線のブロードバンドネットワークを使ったサービス提供もどんどん進めていきます。

Q 現段階ではどのようなサービスをお考えですか。

A ブロードバンドを最大限に活用したサービスとして、映像、ホームICT、そしてクラウド、これまでも推進してきたこれらのサービスのさらなる充実と新たなサービスの創出・展開に挑みたいのです。

光のIPネットワークを使った映像配信サービスである「ひかりTV」については、すでに利用者が130万を超えています。地上波デジタル放送の再送信、多チャンネル放送、VOD（Video On Demand）などをご利用いただいておりますが、2010年は3D映像の配信や、携帯などの端末を利用したりリモート予約サービス、BS放送のIP再送信を開始しました。2011年は、研究所を中心として高品質のフルHDの3D映像配信などの実証実験も始める予定であり、より便利で楽しいサービスの提供を進めていきます。

ホームICTについては、2009年12月から大手家電メーカー、オフィス機器メーカーの方々をはじめとする多くの企業とアライアンスを組み、共同実験をしておりましたが、基本的な技術検証が完了したため、2010年11月よりフィールドトライアルを開始しました。2011年の春以降いよいよ本格的なサービス始動です。すでに提供しているPC・ネットワーク機器の設定サポートやトラブル対応を遠隔から行うリモートサポートサービスも順調に契約者数を増やしており、今後ホームICTが家庭のコントロールセンタとなって、ホームセキュリティ、映像の共有、医療・ヘルスケア、教育、環境など生活の品質向上や様々な社会的問題の解決に役立っていくと考えています。また、数多くの中小企業に対してもオ

フィスICTとして同じ技術を基にサービス展開できるので、推進していきたいです。

そしてクラウドに関しては、クラウドを実現するプラットフォームやネットワーク、さらにはパートナーと連携してプラットフォーム上のアプリケーションを展開しております。

今、研究所では「オープン」「セキュリティ」「大規模」「分散」「エコ」をキーワードに、クラウドの展開に向けて重要な大規模分散処理基盤と運用管理技術を開発しています。これまでの技術とノウハウを生かし、事業会社と連携をしながら法人向けクラウドや、行政や医療・健康、教育の場へ展開し、安心・安全な社会基盤クラウドに発展させていきたいと思っています。

これらの映像、ホームICT、クラウドを発展させることで、お客様は、場所や端末を意識せずに自分が普段使っている環境へシームレスにアクセスするというのが当たり前になる時代が近い将来訪れます。2011年は、ブロードバンドネットワーク、上位レイヤのサービスや多種多様な端末も含めたFMC（Fixed Mobile Convergence：固定通信と移動通信を融合した通信サービスの形態）がより重要になってくるでしょう。

Q こうしたサービスはまだ発展するのでしょうか。

A サービス創造はエンドレスです。単にできるということと、それが使いやすく、かつリーズナブルに提供できるということは違います。携帯電話も自動車電話からショルダー、そして携帯型となり、さら



にファッションブルにもなりました。コンシェルジュサービスやお財布ケータイなど、様々な機能がどんどん生まれており、今や携帯電話から「ケータイ」となり、さらには、スマートフォンの出現も含め、社会生活のあらゆるところで使われるようになってきています。

しかも、私がかつて想像していた以上のスピードでその技術は発展しています。世界的にみてモバイルの契約者数が固定を上回ったこと、ブロードバンドの速度や料金、コンピュータの処理能力やメモリ容量、サーバに大変な量のデータをアップロードできること、これらはすべて驚くべきことです。技術的には可能であることは分かっていたとしても、これだけ早く実現できたということは驚きです。

Q **NTTにはそのスピードに追い付くサービスの提供が求められているといえますね。**

A そのとおりです。ですから、私は研究開発者には、「スピード」だと常に話しています。世の中でサービスしているのがNTTだけなら、このスピードでも良いのですが、世界のあらゆる企業が参画している市場であり、その分だけ多くの技術革新が展開されています。

中でも、クラウドの分野は注目されています。クラウドサービスはコンピュータやネットワーク機器メーカー、ネット関連の新興企業、ソフトウェア業界からも参入していますし、NTTのような電気通信事業者も参入するなど、競争のメカニズムは大きく変化しています。だからこそ、技術革新、競争ともにかかなりのスピードを強い

られる。お客様のための技術革新を進めながら、こうした競争にも対応していく必要があります。

NTTは日本の電気通信事業者からスタートしていますが、グローバルにICTの技術とサービスを提供する事業者でありたい。技術もさることながら、その技術をどう活用するかを熟知し、実際のサービスとして提供できる存在でありたいと思っています。グループ全体で約6,000名の研究者を抱える研究開発体制は世界的にみてもトップレベルの存在であり、NTTの競争力、成長力の源です。しかし、技術的にできることと本当に使いやすいサービスにはギャップがあります。コストパフォーマンスや使い勝手の良さなどは、お客様や時代に合うものに改善していかなければならないのは当然です。グローバルで競争しながら、お客様に良いサービスを提供するためにやること、できることはまだまだあります。日本人は良い意味で要求するレベルが高いだけに、日本の技術は成長しているし、グローバルの目線を持って、こうした技術を世界へ展開するのは、良い方向性だと思います。

Q **NTTの技術が海外で利用されている事例を教えてください。**

A 2010年に南アフリカで開催されたワールドカップサッカーでは映像伝送装置を提供しました。この装置は世界の20以上の放送局で利用され、60以上の国々に高品質な映像を配信しました。これは、通信と放送とのサービス融合の一例です。それから、チリの鉱山で発生した落盤事故の救出現場でも私たちの技術をご利用いただきました。地下の様子を確認

するために、TV電話を活用したのを覚えていらっしゃいますでしょうか。実はあれはNTTの技術が利用されていたのです。チリでは鉱山を所有している「CODELCO」という国営会社があるのですが、このCODELCOとNTTは、NTTの研究開発成果を鉱山業界に展開するための合併会社として「micomo」を2006年に設立しました。このmicomoが地上から開けられた穴に光ファイバを通し、TV電話を設置したのです。もともと鉱山では落盤事故などの可能性があるため、地下での安全管理や通信手段は必要であると考え、micomoを創設していました。その技術が役に立ち、映像を使ったコミュニケーションが救出現場で活躍したのは非常に嬉しいことです。

Q **今後のグローバル展開についてどのようにお考えですか。**

A グローバルというキーワードでいえば、この円高のもと、海外企業とのM&Aにも拍車がかかっていることは日本社会のトレンドです。また、日本のマーケットの伸びが限られてきていることも事実であり、企業を成長させるにはやはりグローバル展開は必須であると思います。成長しているマーケットは世界にはまだまだありますから、そこを見逃す手はありません。NTTグループにおいてもM&Aは積極的に進めています。2010年に買収したDimension Data社は全世界49ヶ国において事業展開をしていますから、NTTに新しい風、マーケットをもたらすことでしょう。また、NTTデータの傘下となったKeane社はアメリカでシステムインテグレーションを主要業務としてお

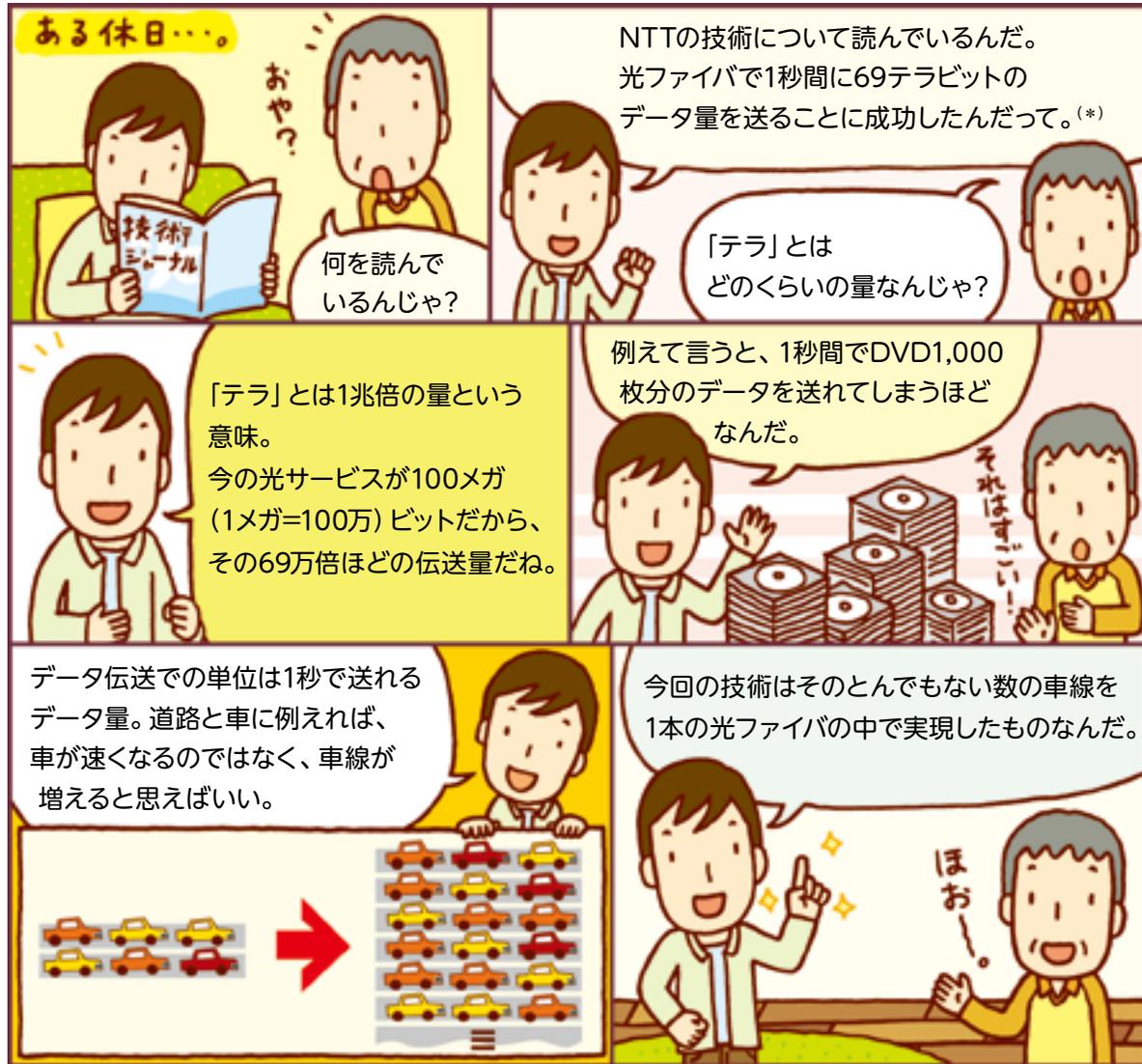


り、NTTグループのアメリカでの事業展開のキーになると思います。

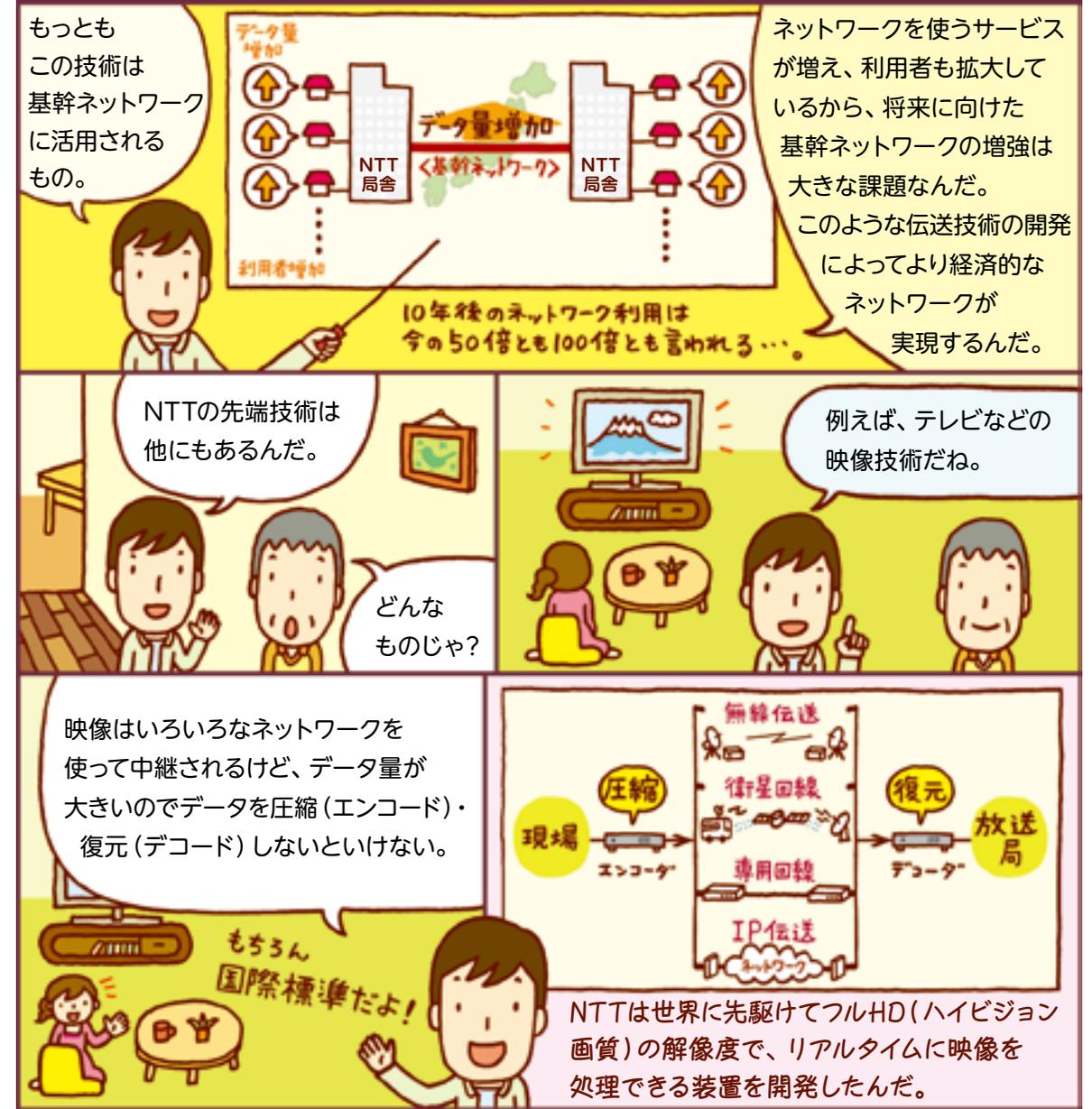
NTTは、日本の通信会社ですが、今やグローバルなICTサービスカンパニーを目指し、エリア、業務内容も広がっています。この大きな変化を機にいよいよ本格的に世界に向けて動き出していきます。NTTのように製造業ではない電気通信事業者が、ネットワーク事業以外でグローバルに展開し、業務内容も広がっていくことは先進的であり、先駆的な活動になります。NTTグループは、固定・無線の通信事業に加え、上位レイヤサービス、ソリューション、建築・電力、研究開発など多面的なグループパワーを持っていますので、それらの総合力を発揮していければと思います。

研究開発の取り組み状況

NTTグループは「グローバルICTサービスカンパニー」に向けて魅力あるサービスの研究開発を行っています。ここでは、その取り組み状況の一例をご紹介します。



(*) 1本の光ファイバで1秒間に69テラビットを240km伝送することに成功。





この装置は、バンクーバーオリンピックや…

…2010年のワールドカップサッカーでも20以上の放送局が利用し、60以上の国々へ配信するのに活用されたんだ。

すごーい!

あとは、暗号化技術だね。NTTは共同開発によって優れた暗号方式を開発したんだ。

今後は家庭のテレビも大型化してきて、さらにきれいな画像がもとめられる。フルHDを超えた、さらなる高解像度映像への研究も進めているんだ!

もっときれいになるのね。

暗号化技術?

今や情報通信は「所有から利用」にシフトしてきている。自前でサーバを設置するなどの投資をせずに、ネットワーク上にあるサーバを利用するんだ。

設備投資管理コスト

使った分だけのコスト負担

サーバ

クラウドサービスのことね。

ネットワーク

サーバの仮想化

利用側から見ると、あたかも自分専用のサーバに見えるけど、実際は仮想化という技術を使って、1台のサーバ上に複数の仮想サーバをつくりあげているんだ。

クラウドでは、この仮想化によって効率よくサーバを使うことが一般的だね。

でも実際は同じサーバを共有しているので、機密情報などを扱うことは、セキュリティ上、注意が必要と言われていたんだ。

そんな条件かしら?

そこで開発されたのがこの「新世代暗号方式」。これは世界で初めて、暗号-復号のメカニズムの中に高度な条件設定を組み込むことに成功したものなんだ。

クラウド上にファイルを載せる際に、ファイルを暗号化して、閲覧できる利用者の条件をファイルに直接設定できるんだ。これであれば、第三者がファイルをダウンロードできたとしても、決して内容を閲覧することはできないので安心なんだ。

<機密情報>

暗号化してクラウドへ

部長または人事部課長のみ閲覧可

ファイルに直接条件を設定

OR

部長 AND 人事部課長

ダウンロード

営業部課長「閲覧不可」

OK

人事部課長「閲覧可」

誰が閲覧できるかをサーバが管理するのは、サーバの負荷が大きくなってしまふ。

今回紹介した技術はNTTの研究開発成果のほんの一握り。今後もサービス向上に貢献する技術をどんどん開発していくんだ!

個々のファイルに条件を設定できるのが強みなおね。

第3四半期(累計)の 決算概要

○営業収益は前年同期と比べ170億円(0.2%)増収の7兆5,427億円

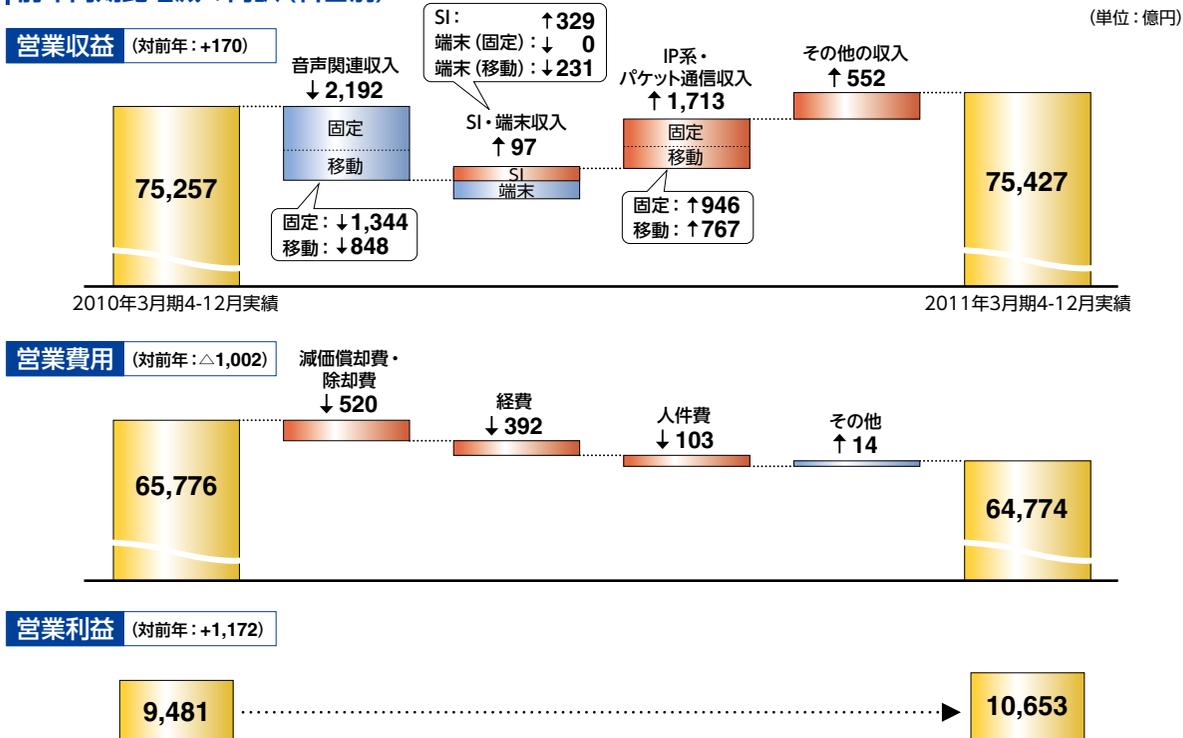
- ・「フレッツ光」の拡販やドコモのポケットARPUの上昇などにより、IP系・パケット通信収入が増加
- ・上位レイヤ子会社を中心に、その他の営業収入が増加
- ・携帯電話のバリュープランを選択されるお客様の伸びが緩やかになってきたことや、固定電話の縮小幅が小さくなったことなどにより、音声関連収入の減少幅が縮小

○営業費用は前年同期と比べ1,002億円(1.5%)減少の6兆4,774億円

- ・投資の効率化などにより減価償却費が減少
- ・グループ全体でコスト削減に努めたことなどにより経費が減少

○営業利益は前年同期と比べ1,172億円(12.4%)増加の1兆653億円

前年同期比増減の内訳(科目別)



本誌に記載されている予想数値および将来の見通しは、不確定性・不確実性を含んでおり、実際の業績などにつきましては、今後の経済や情報通信業界内外の動向、新たな技術・サービスや料金水準などにより変動することがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありません。

連結および主要な会社別損益状況

NTT連結とは、NTTグループ連結子会社750社、持分法適用会社100社の連結決算を表しています。ここでは、主な5社として、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTTドコモを掲載しております。

(単位: 億円)

区分	NTT連結 ※1	NTT東日本 ※1	NTT西日本 ※1	NTT コミュニケーションズ ※1	NTTデータ ※1	NTTドコモ ※1
	NTT	NTT東日本	NTT西日本	NTT Communications	NTT Data	docomo
営業収益	75,427	14,387	13,044	7,656	8,139	32,091
(対前年増減額)	(170)	(133)	(△97)	(△308)	(172)	(△332)
(対前年増減率)	(0.2%)	(0.9%)	(△0.7%)	(△3.9%)	(2.2%)	(△1.0%)
(通期業績予想)	(101,400)	(19,450)	(17,530)	(10,350)	(11,600)	(42,090)
(進捗率)	(74.4%)	(74.0%)	(74.4%)	(74.0%)	(70.2%)	(76.2%)
営業費用	64,774	13,660	12,539	7,004	7,680	24,506
(対前年増減額)	(△1,002)	(△116)	(△340)	(△182)	(215)	(△891)
(対前年増減率)	(△1.5%)	(△0.8%)	(△2.6%)	(△2.5%)	(2.9%)	(△3.5%)
(通期業績予想)	(89,600)	(18,800)	(17,160)	(9,550)	(10,850)	(33,690)
(進捗率)	(72.3%)	(72.7%)	(73.1%)	(73.3%)	(70.8%)	(72.7%)
営業利益	10,653	727	504	652	459	7,585
(対前年増減額)	(1,172)	(249)	(242)	(△126)	(△42)	(558)
(対前年増減率)	(12.4%)	(52.3%)	(92.6%)	(△16.2%)	(△8.4%)	(7.9%)
(通期業績予想)	(11,800)	(650)	(370)	(800)	(750)	(8,400)
(進捗率)	(90.3%)	(112.0%)	(136.5%)	(81.5%)	(61.3%)	(90.3%)
税引前利益	10,315	※2 886	※2 641	※2 757	※2 429	7,486
(対前年増減額)	(897)	(256)	(282)	(△128)	(△22)	(470)
(対前年増減率)	(9.5%)	(40.7%)	(78.4%)	(△14.5%)	(△5.0%)	(6.7%)
(通期業績予想)	(11,500)	(850)	(490)	(900)	(700)	(8,380)
(進捗率)	(89.7%)	(104.3%)	(131.0%)	(84.1%)	(61.4%)	(89.3%)
四半期純利益	※3 4,583	562	483	423	228	※4 4,440
(対前年増減額)	(393)	(103)	(194)	(△101)	(10)	(246)
(対前年増減率)	(9.4%)	(22.5%)	(67.3%)	(△19.3%)	(4.8%)	(5.9%)
(通期業績予想)	(5,000)	(510)	(380)	(490)	(365)	(4,970)
(進捗率)	(91.7%)	(110.3%)	(127.2%)	(86.4%)	(62.7%)	(89.3%)

※1 当社およびNTTドコモは米国基準(連結)、NTT東日本、NTT西日本およびNTTコミュニケーションズは国内基準(単独)、NTTデータは国内基準(連結)に準拠して作成しております。

※2 NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズおよびNTTデータの税引前利益欄には、経常利益を記載しております。

※3 NTT連結の四半期純利益は、当社に帰属する四半期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

※4 NTTドコモの四半期純利益は、NTTドコモに帰属する四半期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

NTTグループの主なニュースをご紹介します。

10
October

- 「経済産業省商務情報政策局長表彰(情報セキュリティ促進部門)」を受賞 (NTT)
- クラウド対応デバイスサーバ「N-TRANSFER (エヌトランスファー)」を販売開始 (NTT東日本、NTT西日本)
- 量子暗号ネットワークの試験運用開始～世界初、完全秘匿な多点テレビ会議を敷設光ファイバ網で実現～ (NTT)
- 美しさと高機能性を兼ね備えたスマートフォン「GALAXY S」を発売 (NTTドコモ)
- 米国ITサービス企業Keane International, Incの子会社化について契約を締結 (NTTデータ)



11
November

- PSTNのマイグレーションに関する概括的展望を公表 (NTT東日本、NTT西日本) [>>14ページ](#)
- 自己株式の消却に関するお知らせ～自己株式の半数を消却～ (NTT)
- ホームICTに関するフィールドトライアルを展開 (NTT東日本、NTT西日本、NTT)
- 「フレッツ・マーケット」と「光iフレーム」の提供を開始 (NTT東日本)
- 2020年度に向けた新たなNTTグループ環境ビジョン「THE GREEN VISION 2020」を制定 (NTT)



12
December

- 100Gbpsイーサネットを効率的に運ぶ広域光ネットワーク実験に成功 (NTT)
- Dimension Data Holdings plcを完全子会社化～グローバル事業においてトータルICTサービスを実現～ (NTT) [>>12ページ](#)
- モバイルWi-Fiルータ「光ポータブル」のレンタル提供を開始 (NTT西日本)
- 日系通信事業者初の国内外シームレスな「グローバルIP内線通信サービス」を提供開始 (NTTコミュニケーションズ)
- LTE (Long Term Evolution) を利用したサービス「Xi」(クロッシィ)® の提供を開始 (NTTドコモ) [>>13ページ](#)



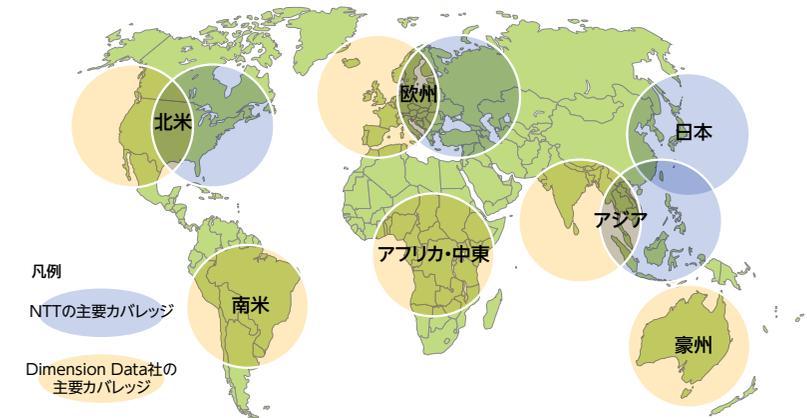
国内外の法人のお客様からのトータルなICTサービスニーズに対応 Dimension Data社

完全子会社化で、法人のお客様向けグローバル戦略を加速

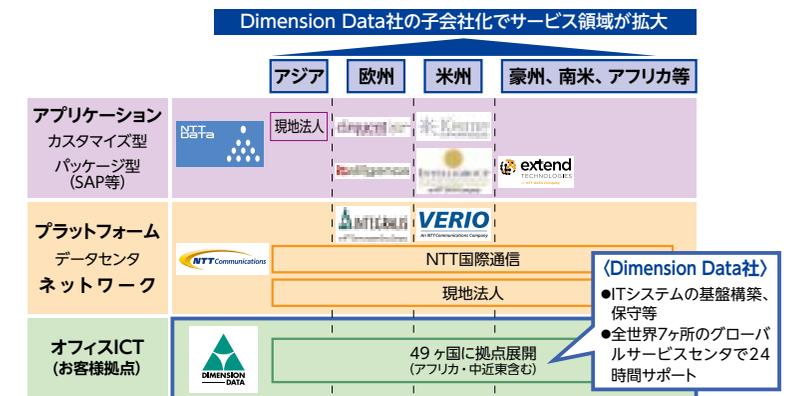
NTTは2010年7月15日、英国の株式会社Dimension Data Holdings plc (以下、「Dimension Data社」と)、Dimension Data社の発行済および発行予定全株式を取得する手続きを開始し、2010年12月13日に完全子会社化いたしました。

Dimension Data社は1983年に創業し、IT設備の基盤構築から運用・保守まで、システムインテグレーションを中心としたサービスを、アジア・欧米・アフリカ・中東・オーストラリアにおいて提供しています。アジア・欧米にネットワークやデータセンタを提供するNTTグループとは「エリアカバレッジ」「サービスラインアップ」「顧客基盤」において理想的な補完関係にあり、今回の子会社化により、双方の強みを生かしながらクラウド時代の新たなサービスを実現していくことが可能となります。今後グローバル戦略においては買収企業の事業シナジーを追求する一方、グループ各社の強みを融合し、トータルなICTサービスを提供してICT市場でのリーディングポジションの確立を目指します。

エリアカバレッジの補完関係



法人のお客様向け事業のグローバル展開



「Xi」(クロッシィ)[®] サービスを提供開始



高速・大容量・低遅延の次世代通信LTEサービス「Xi」(クロッシィ)[®]

NTTドコモは、新たな携帯電話の通信規格であるLTE (Long Term Evolutionの略) を利用したサービス「Xi」を2010年12月24日から提供開始しました。

NTTドコモはこれまでLTE方式の標準化・実用化に積極的に取り組んできました。世界各国での将来的な採用が見込まれている同方式による通信サービスを、世界の先頭集団として開始することは、グローバル化する市場において競争優位の観点から大きな意味を持ちます。

「Xi」は、サービス開始当初、FOMAの通信速度の約10倍となる受信時最大75Mbpsの高速通信*によるデータ通信サービスを提供し、2012年3月期中には音声通話サービスを提供する予定です。対応エリアは東名阪地域から開始し、県庁所在地級の都市、その他の地域へと順次拡大していきます。

*受信時最大37.5Mbps、送信時最大12.5Mbpsの高速データ通信 (Xiエリア内一部の屋内施設では受信時最大75Mbps、送信時最大25Mbps)

「Xi」(クロッシィ)[®]の特長

「Xi」には高速・大容量・低遅延という3つの特長があります。この特長を利用して、例えばネットワーク上で瞬間的に言葉を翻訳してもらえらる「同時通訳サービス」などの実現化が考えられます。

サービスロゴ「Xi」

「Xi」は「人、物、情報のつながり」や「無限の可能性」を意味し、「i」は「イノベーション」や「私」を意味しており、様々な人、物、情報が有機的につながり、新たなイノベーションを引き起こしていくことを表現しております。

そして「Xi」の文字を複合的に1つのデザイン化することで、その「つながり」を直感的に感じさせるとともに、そこから生まれる無限(∞: インフィニティ)の可能性を表しています。



対応機種

●L-02C
超高速モバイルブロードバンドで快適インターネットを実現するUSB型モデル (2010年12月24日発売)



●F-06C
先進的なデザインのExpressCard型モデル (2011年4月発売予定)



PSTN^{*1}のマイグレーション^{*2}に関する 概括的展望について



NTT東日本およびNTT西日本は2010年11月2日、PSTNのマイグレーションに関する 概括的展望を公表

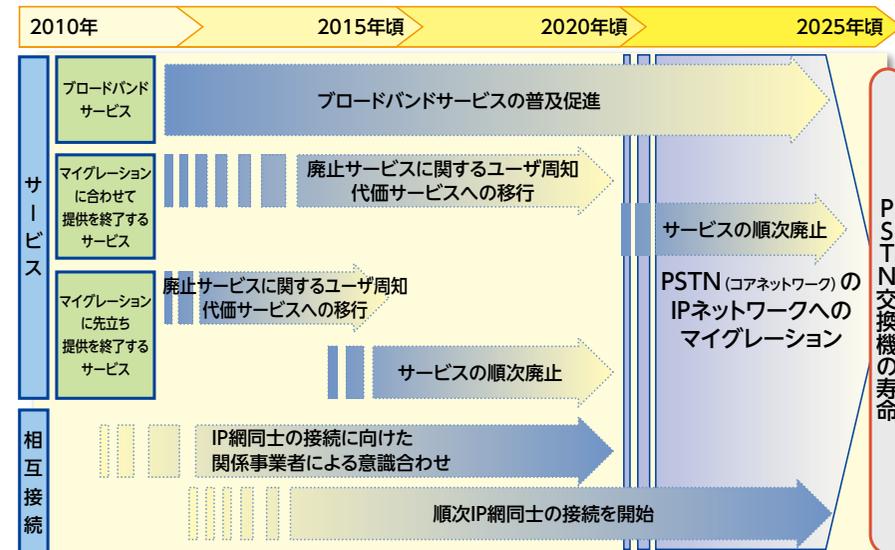
PSTNからIP網へのマイグレーションについては、IP系サービスへの需要のシフトおよびPSTN交換機の寿命などを勘案し、概ね10年後の2020年頃開始し、2025年頃に完了することを想定しています。その際、一部提供を終了するサービスがありますが、お客様への十分な周知期間を取ったうえで、お客様対応を実施します。

なお、PSTNからIP網にマイグレーションした後も、お客様がPSTNでご利用いただいている基本的なサービスを継続してご利用可能とすることはもとより、今後とも引き続きIPベースのサービスを拡充し、お客様の利便性向上に努めることにより、IP・ブロードバンドの普及拡大を図っていく考えです。

*1 PSTN (Public Switched Telephone Networks) : 公衆交換電話網、一般の加入電話回線ネットワークのことを指します。

*2 マイグレーション (migration) : 移行することを指します。NTTの「マイグレーション」には、上記PSTNからIP網へのマイグレーションの他、旧IP網から新IP網 (NGN) へのマイグレーション (2013年3月期末までに実施予定) があります。

PSTN(コアネットワーク)のマイグレーションに向けたスケジュール





株式インフォメーション

住所・氏名など
届出事項の変更、
配当金振込先の
指定について

【証券会社の口座に当社株式が記録されている株主様】

お取引先の証券会社へお問い合わせください。

【特別口座に当社株式が記録されている株主様】

当社特別口座管理機関の中央三井信託銀行へお問い合わせください。

◎住所・氏名の表記について

住所および氏名などの文字のうち、証券保管振替機構が指定していない漢字などが含まれている場合には、その全部または一部を証券保管振替機構が指定した文字に置き換えさせていただくことができますのでご了承ください。

◎未払配当金の支払について

まだ受け取られていない配当金がある場合は、お早めに中央三井信託銀行にお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

NTT株主様専用電話： 0120-58-4400

代表電話： 0120-78-2031

株主・投資家の皆様向けホームページ <http://www.ntt.co.jp/ir/>

NTT東日本・NTT西日本

「電話サービス」に関するお申し込み・お問い合わせは

(周番なし) **116** (NTT東日本：午前9時～午後9時
NTT西日本：午前9時～午後5時
年中無休 ※年末年始を除く)

「ブロードバンドサービス」に関する
お申し込み・お問い合わせは

0120-116116
(午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

NTTコミュニケーションズ

電話・インターネットのサービスに関する
お申し込み・お問い合わせは

コール・コール
0120-506506

(午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

NTTドコモ

総合お問い合わせ先／各種ご注文受付
(ドコモ インフォメーションセンター)
ドコモの携帯電話からの場合

(周番なし) **151** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

一般電話などからの場合

0120-800-000 (午前9時～午後8時 年中無休)
※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

日本電信電話株式会社

